クラブ通信 Vol.161

2021年10月

生活クラブ

8月度実績報告(7/21～8/20)
◎組合員数　19,339人 (8/20現在)
加入　86人
脱退　88人
◎供給高　269,405千円　(計画比　95.8%)
(前年比　86.1%)
一人当たり利用高 13,930千円　(前年比　85.4%)

ご意見・ご要望を お寄せ下さい。
https://osaka.seikatsuclub.coop/　TEL. 072-641-5547
発行/生活クラブ生協大阪理事会　編集/広報委員会　茨木市清水1丁目21番4号

秋の試食キャンペーン 開催中です！

（詳細はチラシにて）

オススメ

お試しサンプル

① 鶏モモ・ムネ肉セット
（モモ肉約150g＋ムネ肉約100g）
② パスチャライズド牛乳900ml
③ 絹ごし豆腐

「生活クラブのここが好き！」を伝えよう

私が生活クラブで好きなのは、食べておいしいだけでなく、それが他の「良いこと」につながるところ！

パスチャライズド牛乳は、さらりとして栄養分が残っているだけじゃなく、びんのリユースでCO_2削減ができる。注文された分だけ作るから廃棄物が少ないなど、ただ食べたり使ったりしているだけで、環境への負荷を減らせるしくみがある。人を大切に考えた福祉のしくみ、自分たちの電気もある。

これらは、「なんでこういうものがないんだろう?」「無いならみんなでつくろう!」と組合員が生産者と共に思いを形にしてきたものです。

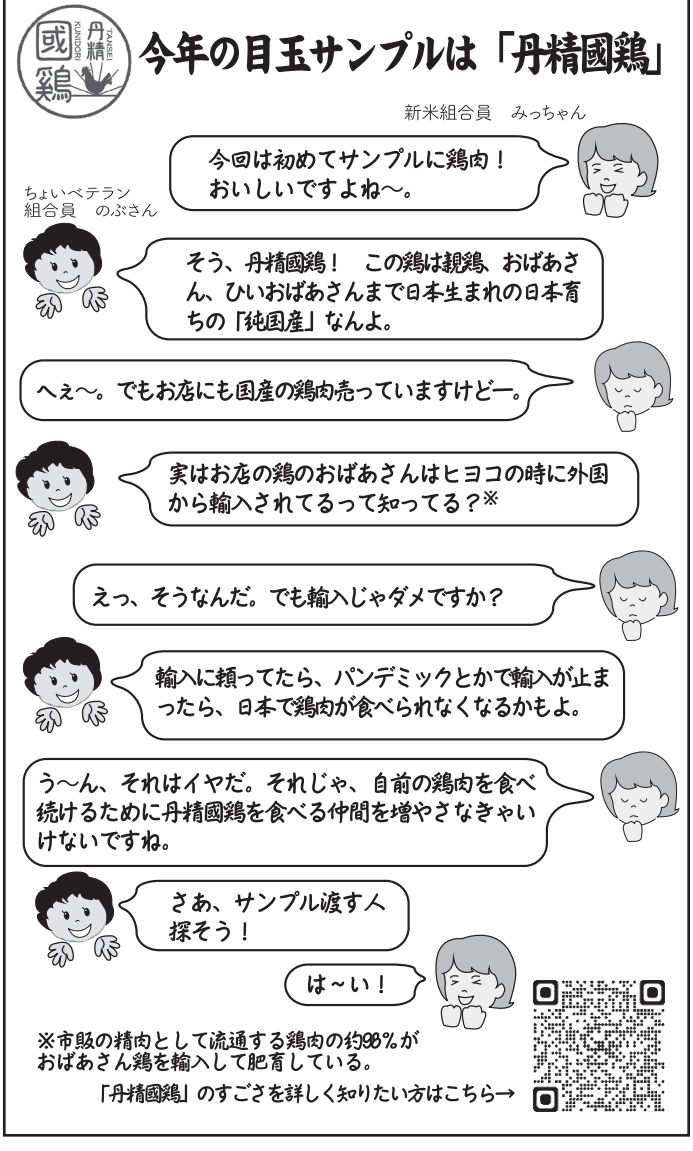
原材料や手間の割に値段が高過ぎないのは、大勢でする共同購入だからです。この「おおぜい」が生活協同組合の大切なところ。一人ではできないことを、おおぜいの力で可能にしています。力が集まる程「こんなだったらいいな」に近づきます。

あなたは生活クラブのどんなところが好きですか？　そのオススメを近くの人に話して、消費材サンプルを試してもらってはどうでしょう？

「おいしい！」「中身が明らかなもの食べるって大切！」など共感して組合員になる仲間が広がるといいですね。そんな仲間と、消費材を選んで使うおおぜいの力で、サステイナブルな社会をつくっていきましょう。

（門真ブロック　小倉香住理事）

今年の目玉サンプルは「丹精國鶏」



「でんきを変える、でんきで変わる」

私の未来につなげる「エネルギーアクション」

今秋のエネルギー基本計画改定に向けて、生活クラブ生協で署名等の活動に取り組むと聞いた時は、正直、委員会に所属しているとは言え、難し過ぎてわからない！　と思いました。一般の組合員にとっては尚更だろうと、Zoomで緊急スタート集会を企画しました。思いの外参加者も多くて嬉しかったです。

署名は今回コロナ禍で人と会う機会もない状況下、代筆が可能であると知り、友人・知人に片っ端からメールやラインを送りました。かなり唐突でしたが、意外や意外、代筆OKの返事をたくさんもらいました。中には「予告をたまたま見た」と、関連あるテレビ番組を教えてくれる友人もいました。

6月30日に大阪市役所前で、段ボールに手書きしたプラカードを持ってスタンディング・アピールに参加。「あと４年、未来を守るのは今※」のアクションに参加する若者が、熱く訴えていたのが印象的でした。「喋りますか？」と言われたのに、何の用意もなく尻込みしたのが返す返すも残念！　どんな時でもスピーチできるようにと、リベンジを誓いました！　署名は他団体と合わせ27万筆以上も集まり、その数やスタンディング・アピールをしたことを、友人らに報告すると、「環境や大切に思うことのためには、意思表示しないと政情に流されてしまいますよね」など、感心されたり、共感してもらえました。

次はパブリックコメントです。今まではなかなかハードルが高かったけれど、今回は必ず出します。

（自然エネルギー委員会　奥村芳実）

※産業革命以降の気温上昇を2050年までに1.5℃に抑えるためには、2030年までに温室効果ガスを2010年比半減が必要。そのためには2020年から10年間で毎年7.6％の削減が必要とされる。25年からの5年間でそれを達成しようとすれば、毎年15.4％削減が必須でほぼ不可能と言われている。
だから「25年までの4年間のうちに、7.6％削減を始めよう」というキャンペーン。

あなたが「今すぐできるアクション」はこちら →
再生可能エネルギーを「使う」

だれでもできる！空びん返して脱プラ

Rびん回収率UPキャンペーン

11／26（金）まで開催中

ガラスびんは一度砕いて作り直すリサイクルより、繰り返し使うリユースの方がずっと環境にやさしいってご存じですか？　回収・洗浄して再使用する方がエネルギーもCO_2排出量もずっと抑えられ、プラごみ削減もできます。

生活クラブでは現在6種類のガラスびんと牛乳びんをリユースしています。

でも、空になったびんが組合員からちゃんと返ってこないとリユースの循環が成り立ちません。特に「自主回収の認定」を受けている※ 900mlと500mlの昨年の回収率は、連合会全体でそれぞれ77.1％と77％と、80%を下回っています。

そこで今年は生活クラブ連合会では、回収率80%をめざし、この2種類の回収率アップキャンペーンを開催中です。同時に、生活クラブ生協大阪独自の目標も決めて達成をめざします！（右上の表を参照）

【生活クラブ生協大阪独自目標】
→回収率３％以上アップ！

	実績（2019.12~2020.11）	目標（2020.12~2021.11）
900ml	79.4%（77.1%）	83.0%（80.0%）
500ml	75.2%（77.0%）	78.5%（80.0%）

＊（　）内は、連合会

「いつも返しているわ！」という人も「え？　空びんって生協に返すんだったの？」という人も、この機会にしっかり返してなめらか木製スプーンが当たるキャンペーンに応募しましょう！　（今回は900mlと500mlのRびんどれでも3本で一口の応募です）

（環境委員会）

※「容器包装リサイクル法」で、自主回収により80％以上の回収率が見込まれて「自主回収容器」と認定された場合、その品目に対する再商品化費用が全額免除される制度。

8/30配布の応募用紙はコピーして複数応募も可。生活クラブ連合会WEBサイトでダウンロード・印刷もOK、WEB応募（入力）もできます！

生活クラブ グリーンシステム　検索

海のこと、山のこと

～おいしい「のり」は 豊かな山の栄養の賜物（たまもの）～

伊勢湾にある答志島漁場でのりを養殖し、みえぎょれんで加工されて焼きのりができるまでを学びました。

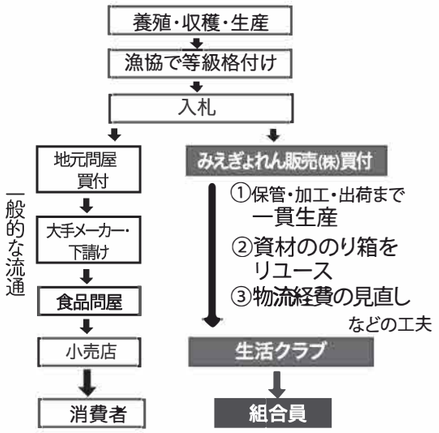
山に降った雨は土の中に蓄えられ土壌の栄養を吸収し、少しずつ川へ流れていきます。街から流れ込む水と共に窒素やリンなどの栄養塩を蓄えながら海に流れて豊かな漁場になるそうです。ところが、荒れた山では、雨は一気に表面を流れ落ちるので栄養塩が含まれません。そんな山と海の関係も学びました。海で育つのりには山からの栄養いっぱいの水が不可欠なのですね。

養殖といっても人工的に行うのは種付けまでで、その後は肥料などをまくこともなく、ほぼ自然任せです。のりの養殖では植物プランクトンの存在が問題です。植物プランクトンは自然条件が合うと短期間に爆発的に増え栄養塩を食べてしまうので、のりが栄養不足になり色付きも味も落ちるのだとか。のりの安定生産のために環境活動（植樹運動、下草刈り、海浜清掃）にも取り組んでいます。

日本の伝統食材である「のり」は、高タンパクでビタミン・ミネラル・食物繊維が豊富な名脇役。大人のおつまみとしても最適で、子どもたちも大好きです。安心・安全、安価で手に入るのりを毎日の食卓に積極的に取り入れましょう。

（オンライン生産者交流会実行委員会 ）

〈みえぎょれん販売ののり〉が
同ランクの市販品より安いのはなぜ?〉



〈取り扱い消費材〉

●のり類
伊勢のり、焼きのり、味付けのり、卓上のり、焼海女のり、きざみのり、など

●かつお節類
かつお厚けずり、混合けずり節、かつお細けずり、パックだし　など

●ゴマ・ふりかけ類
皮むきいりゴマ、すりごま、ねりゴマ、かつおふりかけ お茶漬け、粉末浅漬けの素、など

★はらぺこあおむしのおにぎらず★

交流会の後は、実行委員がかわいい「おにぎらず」を実演しました。自宅の組合員も思い思いに作り（自由参加）、夏休み中の子どもたちも作ったおにぎらずを画面越しに見せてくれました。「食べていい?」と、待ちきれない様子の声が聞こえていました。

〈作り方〉①のりの上にごはんを敷き具材を置く（たまごやき、のり巻きソーセージ4本）。上からもごはんをかぶせて四方からのりで包む。
②ラップで包んでしばらく置いて馴染ませる。
向きに注意して半分に切る。
きゅうりで角、のりで目を飾って出来上がり！

学びの期間で暮らしをよくする知識をGet!

地区委員、専門委員を対象に、生活クラブ生協大阪のC（福祉）の取り組みを学ぶ「ハグカフェ」がエッコロ委員会主催で開催されました。活動に必要な知識は毎日の生活にも役立ちます。

〈新人広報委員がオンライン・ハグカフェに参加した〉

はじめに、エッコロ共済の理念について説明がありました。たすけあい制度であること、組合員活動の保障・暮らしのたすけあい・助成金が3本柱であること、共同購入を通して社会にある問題を解決しようと、『一人ひとりが少しずつのお金と労力を出し合って、組合員のいざという時を支えあう』という制度が、月 100 円で享受できることがわかりました。

託児システムの話では、“とも育ち”は、互いに育つ事、子どもも組合員（保護者）もそれに関わる大人もそれぞれ学び育つ事を伝えてくれました。システムに関するクイズに9問中 3 問しか正解できず、私の知識不足が露呈してしまいました。

エッコロ共済の目的「地域の中で人と人とのつながりをひろげること」を理念として、香里ブロックエリアにオープンしたみんなの居場所「よりみち」の開設エピソードも興味深く聞きました。

今回初めてのハグカフェ、それも Zoom！　ドキドキすることが多い学習会でしたが、私なりに学びの深まる時間でした。

（広報委員会　佐々木興子）

エッコロ共済　９月

会員数			１０,４２７人		
給付状況	消費材の破損		０件	健康診断補助	０件
	託児	地区	４件/６人	延長保育	２件
		全体	３件/１１人	暮らしのたすけあい 日常的なたすけあい	５２件/１５人
		サークル	０件/０人	暮らしのたすけあい 暮らしのサポート	49時間/16人

エッコロ事務局　☎/FAX 072-641-5811
月・火・木(10～15時)

エッコロ共済・連携福祉団体紹介 ②

エッコロ共済には、連携する福祉団体による暮らしのサポートがあります。共済加入者が利用する場合、費用の一部を補てんします。(詳しくはエッコロ共済ガイドブックをご覧ください)

《門真・平野ブロック》
W.co 暮らしの支援 あひるポート
☎ 06-6167-9091

●日常生活の中で、一人で解決できないことが出てきても「誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らし続けることができる」ことを目指し、気持ちに寄り添えるようにお手伝いしています。
家事支援・通院介助・産前産後・託児など、まずは一人で悩まずご相談ください。

●あひるポートの名前の由来は、・・・
「ヨチヨチ歩きのあひるでも、きっと誰かの港(ポート)になれる」という思いを込めて命名。

●誰もがつどえる、みんなの居場所「おかえりびんぐ」を毎月第3水曜日に開いています。
(緊急事態宣言、まん延防止発令中は中止にしています)

「おかえりびんぐ」の様子、あひるポートの活動案内や活動報告をTwitterでツイートしています。合言葉は「おたすけガーコさん」みなさまのフォローをお待ちしております。

※エッコロ共済加入者は、月末に発行される消費材請求書にエッコロ掛け金100円の記載があります。ご確認ください。

生活クラブの活動をするようになって10年ほど、高槻農業体験(農体)に参加して、その後農体の委員になったのがきっかけでした。

初めて農体に参加した頃は登録が20家族ほどで、ほとんどがお母さんと子どもたちでした。10年経って参加者は40家族を超え、今ではそのほとんどにお父さんの参加があることが驚きです。中にはお父さんと子どもだけという家族もいます。時代の変化を目の当たりにして感慨深いものがあります。

Tea Time　ティータイム

「高槻農業体験のこと」

また、数年間継続する家族もあるため、よちよち歩きから始めた子が鎌を持って、稲刈りをしているのを見たりすると、思わずしみじみとしてしまいます。

新型コロナ以前は畑で煮炊きをするのが楽しみでした。羽釜でご飯を炊くのはもちろん、いも煮や大根煮、玉ねぎスープも定番でした。そんな日々も、もう1年半ほどご無沙汰です。

地区企画も同様ですが、早くまたみんなで一緒においしいものを食べられるようになってほしいと、つくづく感じています。　(茨木中央地区　池辺尚代)

生活と自治

■2021年5月号　ものづくり最前線ー いま、生産者は

せっけん一筋、100年以上(ユスケー石鹸)

結婚して50年ずっと洗濯に石けんを使い続けています。合成洗剤を１回も使っていないというのが私の自慢、それが私たちの健康な暮らしを支えているということがわかりました。

界面活性剤と合成界面活性剤との違いを詳しく説明してもらって、これからも石けんを使い続けていく意義がわかりました。石けん一筋100年、ずっと石けんを作り続けているユスケー石鹸、これからもよろしくお願いします。　(ときわ地区　宮川睦美)

一人ひとりの購読料(100円)で成り立っています。

理事会報告

8月30日　茨木本部及びWeb会議

○消費材委員会
「米沢郷牧場生産者交流会」活動計画を決定
○エッコロ委員会
「LP講座ゆるやかな老い支度」活動計画を決定
○子育てひろばサポーター部会
「サポーター養成講座」活動計画を決定
○香里ブロック居場所づくり部会
「LP講座エンディング」活動計画を決定
○自然エネルギー委員会
「飯館電力生産者交流会・飯館バーチャルツアー」活動計画を決定
○オンライン生産者交流会実行委員会
「高橋徳治商店・オンライン生産者交流会」活動計画を決定
○カネシゲファーム・ルーラルキャンパス土地取得のためのカンパ実施を決定
○夏の共済キャンペーン最終報告
目標749件に対し、実績486件
○秋の紹介キャンペーン計画を確認

編集後記

夏休み明け、小学1年生のいる長女の家は大騒ぎだった。

新型コロナ禍で、隣の市は早くから一斉にリモート授業に決定したが、我が市はもたもたしている。始業式の前日の夕方になってやっと「対面、リモートとの二本立てでします。今晩、10時までに希望を伝えるように」とお知らせが来た。

母親と祖母(私)は「感染の可能性を限りなくゼロにするため」リモート選択を主張。父親と叔母(次女)は「子どもは学校の集団で育てるもの、行かせ～」と反論。すったもんだの末、リモート受講となった。

その日以来、母親のみならず、叔母、祖母まで監督総動員され、しんどいことこの上ない。

今号が出る頃には騒ぎが良い方向に収まっていますように。　(S)